

養豚基礎調査全国集計結果

平成18年度

社団法人 日本養豚協会

平成18年度調査は、経年変化を見るための定型設問のほか、調査の主眼として認定農業者、経営形態、給与飼料（リサイクル飼料）について集計しました。

回答数は集計項目により異なりますが、クロス集計における対象項目の記録漏れによるものです。

この印刷物は主要項目について、全国集計したものです。都道府県毎の集計結果は各県養豚協会等に保管してありますので、関心のある方はご照会ください。

今回の調査実施に当たり、ご回答にご協力頂いた方々、又は調査のご指導、調査票の回収にご尽力頂きました方々に深謝申し上げます。

調査結果の概要

1. 調査回答状況について (P.1)

本年度の調査対象経営戸数は、平成18年2月1日現在の全戸数7,800戸を対象に調査を行い、4,870戸（無記入等を含む）で回答率は62.4%である。平均年齢は57.8歳である。

2. 養豚経営について (P.1)

養豚経営の労働形態は、家族経営77.3%、会社経営18.2%である。前年比家族経営が0.9ポイント減（78.2%）、会社経営が0.6ポイント増（17.6%）である。経営タイプは一貫経営75.2%で前年と同傾向である。

3. 肉豚の出荷状況について (P.2)

肉豚の出荷時日齢は全体194.5日齢、出荷時体重は113.2kg、枝肉重量は73.5kgで前年とほぼ同傾向である。

4. 飼養頭数について (P.3)

種雌豚の全頭数は687,427頭で、そのうち純粋種は89,519頭（13.0%）、種雄豚の全頭数は41,959頭で、そのうち純粋種は35,955頭（85.7%）である。

種雌豚の品種割合はランドレース種22.9%、大ヨークシャー種17.1%、パークシャー種49.6%、デュロック種4.8%である。

5. 人工授精実施状況について (P.5)

人工授精を導入・実施している経営者は、人工授精のみ＋自然・人工併用が32.8%であり、前年より1.0ポイント増である。子取り用雌豚規模別では500頭以上で87.5%、1,000頭以上で95.4%が人工授精を導入・実施している。

6. 種雌豚の繁殖成績について (P.6)

全体の1腹当たり平均ほ乳開始頭数は、純粋種（L、W）10.3頭、交雑種（LW、WL）10.6頭、海外ブリッドは10.9頭である。

1腹当たり平均離乳頭数は、純粋種（L、W）9.1頭、交雑種（LW、WL）9.3頭、海外ハイブリッド9.7頭である。

平均育成率は、純粋種（L、W）88.4%、交雑種（LW、WL）88.5%、海外ハイブリッド89.7%である。

母豚の平均分娩回転率は、純粋種（L、W）2.1回、交雑種（LW、WL）2.2回、海外ハイブリッド2.3回である。

7. 事故率について (P.9)

離乳から出荷までの事故率は7.5%で前年比0.1ポイント悪くなった。その主要因は呼吸器疾患が約75.7%を占めている。子取り雌豚頭数規模別でみると50頭以上～199頭以下層及び1,000頭以上層の事故率が高い。

8. 担い手（認定農業者）について (P.10)

平成18年8月1日現在の認定農業者状況は、回答者数4,537戸に対して認定農業者が50.7%、未認定農業者が49.3%でほぼ半々である。

9. 経営形態について (P.11)

経営形態は、個人経営68.8%、有限会社系21.3%、株式会社4.6%である。

10. 環境問題について (P.12)

畜産環境問題で、「困っていることがない」が56.9%、「困っていることがある」が43.1%である。特に問題事項は①悪臭問題 ②水質汚濁問題 ③害虫問題 の順である。

11. リサイクル飼料の利用について (P.13)

現在、養豚経営者が使用している給与飼料は、市販配合飼料が92.9%、リサイクル飼料を利用しているが13.9%、自家配合飼料が8.0%である。

リサイクル飼料の主なものとして、食品製造工場（事業所）からが43.9%、レストラン・ホテル・給食センターからが36.7%である。

リサイクル飼料の利用推移をみると平成15年10%、17年17.3%、18年13.9%である。

1. 調査に対する回答状況について

平成 18 年 8 月 1 日現在

地域	全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄	
回答数(人)	4,870	995	1,378	174	300	85	329	1,609	
性別(人)	男	4,571	938	1,331	161	284	75	310	1,472
	女	155	34	25	3	5	5	6	77
	不明	144	23	22	10	11	5	13	60
平均年齢(歳)	57.8	56.4	57.3	57.2	57.7	60.8	57.8	59.0	

回答者数は 4,870 戸（無回答等戸数を含む）で調査戸数の 62.4%の回答率である。このうち女性は 155 名である。

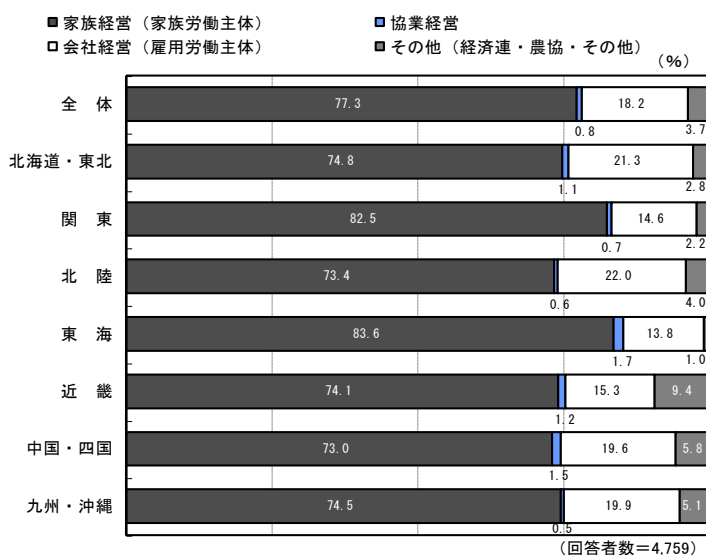
平均年齢は、全体平均 57.8 歳で前年より 0.5 歳上がった。

2. 経営関係について

1 あなたの経営について、ご記入下さい。

1) あなたの養豚経営は、次のどれに当てはまりますか

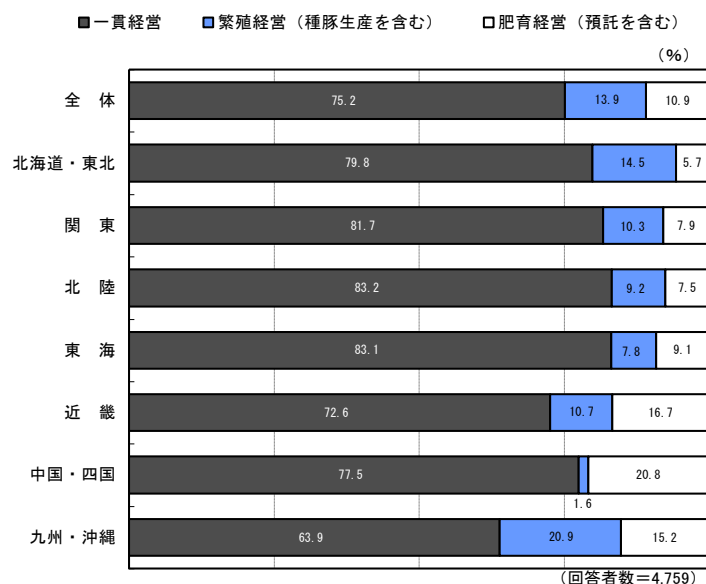
●地域別



養豚経営の労働形態は家族経営が 77.3%、会社経営が 18.2%、その他が 3.7%である。前年比は家族経営が 0.9 ポイント (78.2%) の減、会社経営が 0.6 ポイント (17.6%) の増である。

2) あなたの経営タイプは次のどれに当てはまりますか

●地域別



経営タイプは一貫経営が 75.2%、繁殖経営が 13.9%、肥育経営が 10.9%である。地域別にみると繁殖経営では九州・沖縄が 20.9%と高く、肥育経営では中国・四国が 20.8%と高い。

3. 肉豚について

1) 肉豚の出荷状況

●地域別

		全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
肉豚出荷時 日齢 (日齢)	平均値	194.5	184.9	187.0	184.9	190.6	194.1	189.7	211.5
	最大値	330	300	300	300	250	240	270	330
	最小値	150	150	150	150	160	170	160	150
	回答者数	3,986	819	1,180	154	269	72	272	1,220
肉豚出荷時 生体重 (kg)	平均値	113.2	114.0	113.2	112.8	112.5	113.8	112.7	112.9
	最大値	180	180	160	130	130	130	165	140
	最小値	75	75	90	105	99	100	95	80
	回答者数	3,927	810	1,164	151	256	74	269	1,203
枝肉重量 (kg)	平均値	73.5	73.7	73.8	73.6	73.5	75.5	72.8	73.1
	最大値	117	117	85	85	80	85	100	90
	最小値	56	63	60	68	68	68	56	60
	回答者数	3,988	825	1,181	154	272	74	268	1,214

- ・肉豚出荷時日齢は、全国平均 194.5 日齢で、前年と同じであるが、地域別では九州・沖縄はパークシャーが多いため、日数が長い傾向がある。
- ・肉豚出荷時生体重は 113.2kg であり前年 (112.6kg) より 0.6kg 上昇した。
- ・枝肉重量は全国平均 73.5kg であり前年 (73.4kg) と同じである。

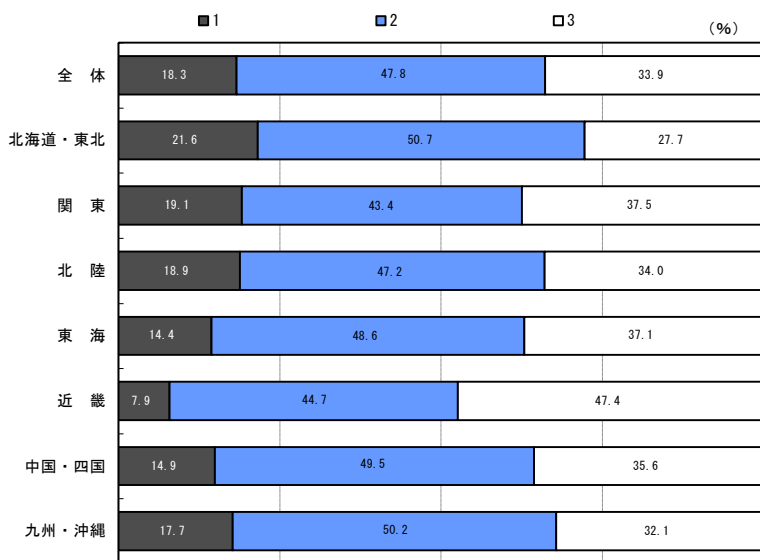
●子取り用雌豚頭数規模別

		全体	1-19頭	20-49頭	50-99頭	100-199頭	200-499頭	500-999頭	1000頭以上
肉豚出荷時 日齢 (日齢)	平均値	194.0	202.8	198.8	193.4	190.0	188.3	186.3	188.4
	最大値	330	330	330	315	280	275	246	269
	最小値	150	150	150	150	155	160	150	158
	回答者数	3,560	467	758	917	751	441	134	92
肉豚出荷時 生体重 (kg)	平均値	113.2	113.6	113.3	113.2	112.9	113.1	113.1	112.6
	最大値	180	150	180	175	130	125	123	120
	最小値	75	80	90	100	75	99	105	100
	回答者数	3,496	451	740	907	740	433	134	91
枝肉重量 (kg)	平均値	73.5	73.9	73.5	73.4	73.6	73.5	73.2	72.6
	最大値	117	90	100	90	117	83	80	78
	最小値	56	56	60	62	66	65	68	64
	回答者数	3,557	461	759	918	753	440	135	91

- ・子取り用雌豚頭数規模別にみると肉豚出荷時日齢は、大規模になるほど早く (14.4 日齢) 出荷されている。
- ・肉豚出荷時生体重、枝肉重量は、大規模になるほど軽くなる傾向 (約 1kg 軽い) にある。

2) 肉豚の出荷状況について

●地域別

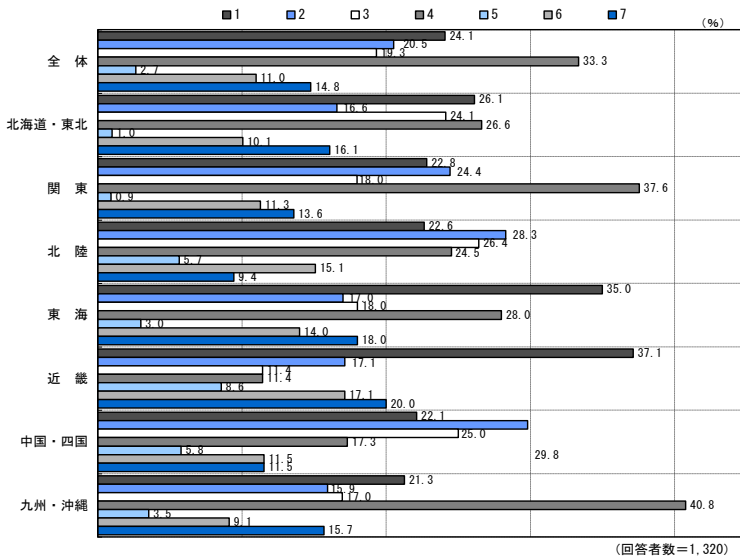


- 1 前年同期間に比べ出荷頭数が、増加した
- 2 前年同期間に比べ出荷頭数は、変わらない
- 3 前年同期間に比べ出荷頭数が、減少した

肉豚の出荷状況については、出荷頭数が増加 18.3%、出荷頭数は変わらない 47.8%、出荷頭数が減少 33.9% で、約 1/3 の養豚経営者が前年より減少したと回答している。

2) 減少の要因について (○印は幾つでも)

●地域別



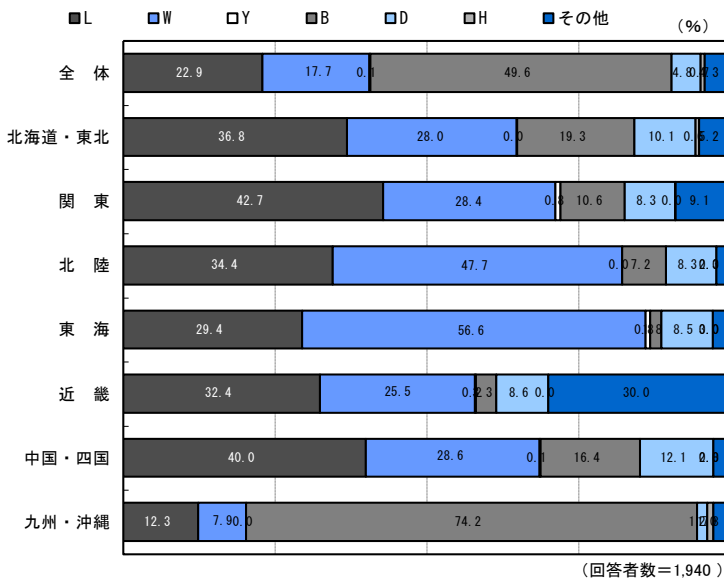
- 1 施設を縮小して、飼養頭数を減らした
- 2 気象変動で、生産性が低下した
- 3 種豚の入れ替えに失敗して、生産性が低下した
- 4 疾病の侵入で、事故率が増加した
(7~9の何れか1つに○印)
- 5 豚舎の事故(台風、地震等)で、生産を縮小した
- 6 経営主、家族、従業員等の事故、病気等で、経営を縮小している
- 7 その他

肉豚の出荷頭数の減少要因をみると、「疾病の侵入で事故率が増加した」が多く、特に九州・沖縄が顕著となっている。また、「気象変動で、生産性が低下した」が多くなっている。

4. 飼養頭数について

1) 品種別子取用雌豚頭数内訳…育成豚を除く 純粋種

●地域別

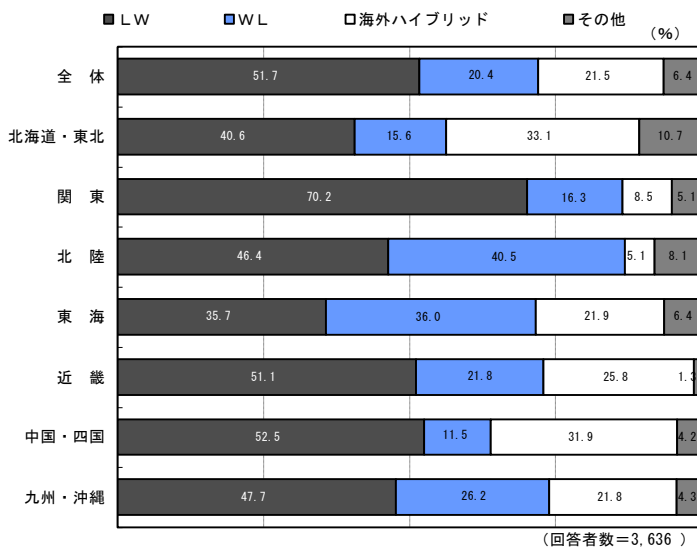


肉豚生産の基幹品種を前年と比較すると、ランドレースは1.5ポイント増、大ヨークシャーは0.3ポイント増、海外ハイブリッドは3.9ポイントの増である。

なお、九州・沖縄ではバークシャーが高品質豚肉の生産でもあり6.8ポイント増である。

交雑種

●地域別

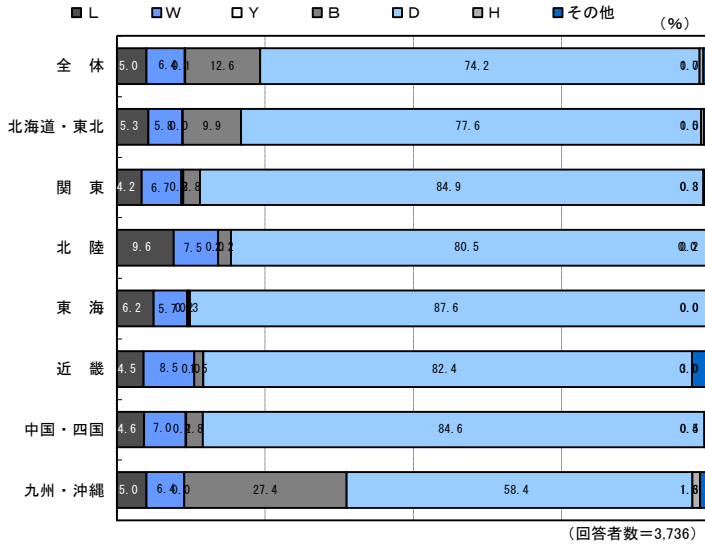


肥育素豚生産のF1母豚として、LW、WLが72.1%(前年比3.6ポイント増)を占めている。また海外ハイブリッドが21.5%(前年比1.1ポイント増)である。

2) 品種別種雄豚頭数内訳…育成豚を除く

純粋種

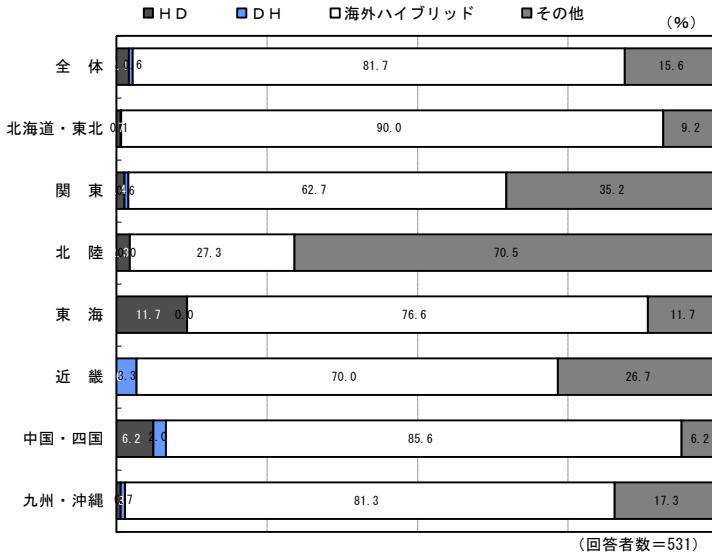
●地域別



肉豚生産体制の中、止め雄としてデュロックが74.2%（前年比1.0ポイント増）を占めている。なお、九州・沖縄ではバークシャーが27.4%（前年比6.8ポイント増）である。

交雑種

●地域別



交雑種種雄豚は、海外ハイブリッドが81.7%を占め、前年（86.3%）と同じ傾向である。

3) 飼養頭数のまとめ

(頭)

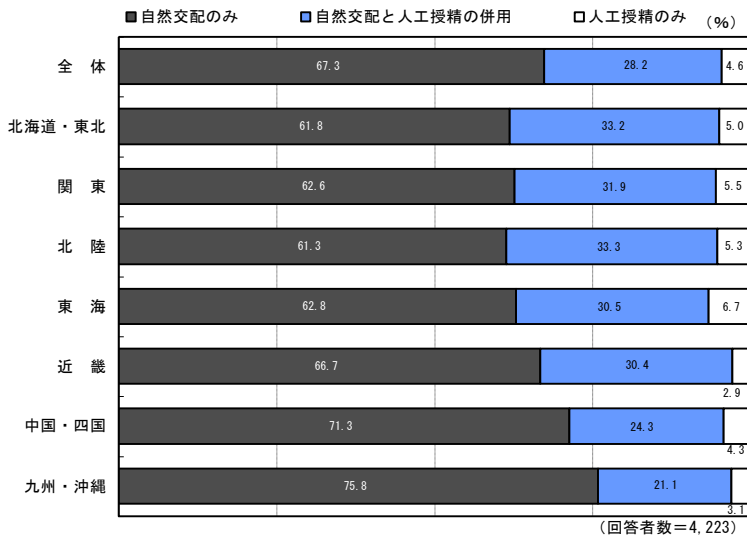
		全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
純粋	子取り用雌豚	89,519	15,233	13,047	2,787	2,894	420	2,012	53,126
	種雄豚	35,955	6,758	10,641	1,275	2,140	398	2,113	12,630
	小計	125,474	21,991	23,688	4,062	5,034	818	4,125	65,756
交雑	子取り用雌豚	597,908	163,038	168,244	15,456	37,465	5,532	44,401	163,772
	種雄豚	6,004	2,334	934	44	290	30	791	1,581
	小計	603,912	165,372	169,178	15,500	37,755	5,562	45,192	165,353
計	子取り用雌豚	687,427	178,271	181,291	18,243	40,359	5,952	46,413	216,898
	種雄豚	41,959	9,092	11,575	1,319	2,430	428	2,904	14,211
	小計	729,386	187,363	192,866	19,562	42,789	6,380	49,317	231,109

純粋種の子取り用雌豚頭数は全体で89,519頭（前年96,000頭）で6.8ポイント減である。種雄豚頭数は35,955頭（前年38,172頭）で5.8ポイントの減である。雌対雄の比率は16:1である（前年は15:1）

5. 人工授精実施状況について

1) 交配の方法について

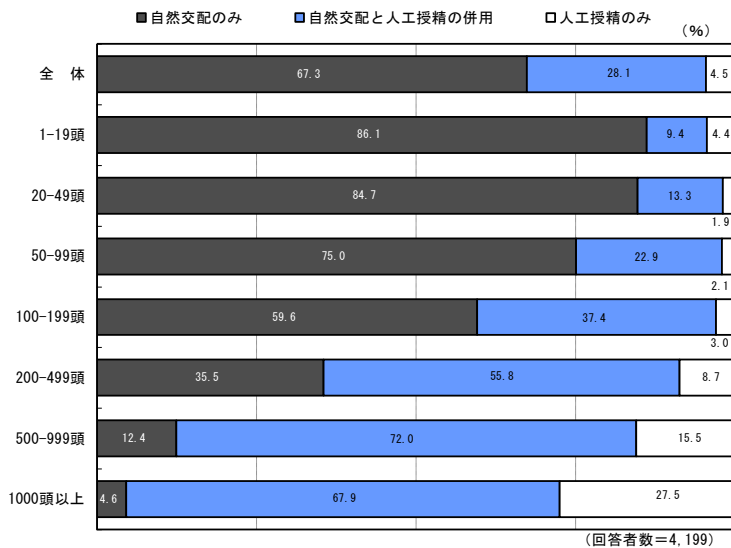
●地域別



交配方法は自然交配 67.3%、自然交配と人工授精の併用 28.2%、人工授精 4.6%となっている。

人工授精の実施状況をみると、平成 12 年、13 年、16 年、17 年では、20%、22%、29%、31.8%で、増加傾向で推移しており、平成 18 年は 32.8%で前年比で 1.0 ポイントの増加である。

●子取り用雌豚頭数規模別

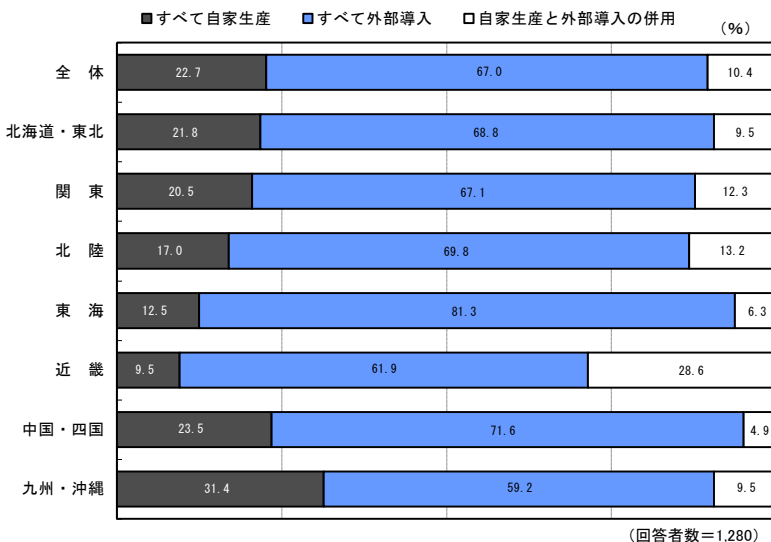


子取り用雌豚頭数規模別でみると、小規模ほど自然交配の割合が高く、大規模ほど併用型の比率が高い。

また、1,000 頭以上規模において、人工授精のみは、27.5%（前年比 3.9 ポイント増加）となっており、併用型と合わせると 95.4%が人工授精を導入している。

2) 精液の入手方法について

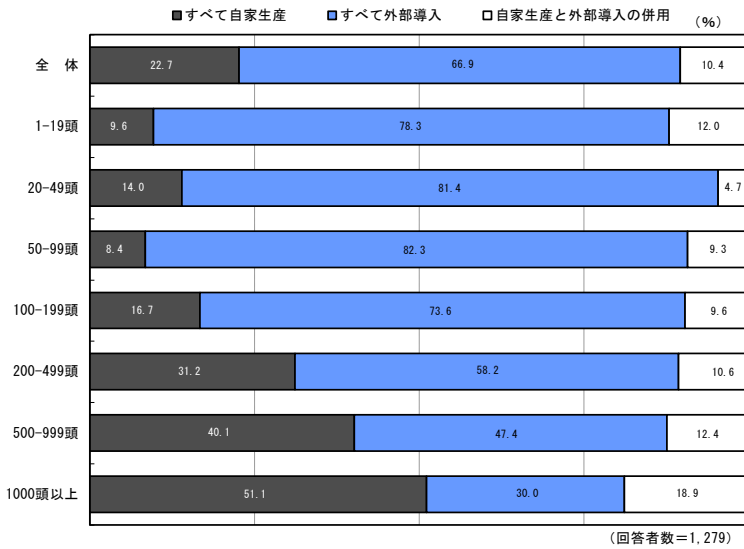
●地域別



精液の入手方法については、全て自家生産が 22.7%、全て外部導入が 67.0%、併用が 10.4%である。

地域別にみても、ほぼ同様の傾向である。

●子取り用雌豚頭数規模別



子取り用雌豚頭数規模別にみると、小規模層ほど自家生産の割合が低く、外部導入が高い。
また、大規模層ほど自家生産が高く、外部導入は低い。

6. 繁殖成績について

1) 1腹当たりの平均哺乳開始頭数 (頭) 平均値

●地域別

(頭)

区分	全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレース (L)	10.3	10.4	10.3	10.6	10.0	10.2	10.6	10.1
大ヨークシャー (W)	10.3	10.5	10.1	10.6	10.2	10.8	10.3	10.2
中ヨークシャー (Y)	9.5	10.0	9.6	---	8.5	10.0	10.0	---
パーカーシャー (B)	8.2	8.4	8.3	7.8	7.7	8.0	8.8	8.1
デュロック (D)	9.0	9.4	8.7	9.8	9.2	9.3	8.6	9.0
ハンプシャー (H)	9.0	10.7	---	9.8	---	---	---	8.3
LW	10.6	10.8	10.5	10.8	10.6	10.5	10.7	10.3
WL	10.5	10.9	10.5	10.9	10.4	10.6	10.6	10.3
海外ハイブリッド	10.9	11.1	10.9	11.1	10.5	10.3	10.8	10.8
その他	10.2	11.8	10.2	10.3	10.4	10.7	10.9	8.9

前年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。
「LW、WL、海外ハイブリッド」の1腹当たり平均哺乳開始頭数は、10.6頭である。

●子取り用雌豚頭数規模別

(頭)

区分	全体	1-19頭	20-49頭	50-99頭	100-199頭	200-499頭	500-999頭	1000頭以上
ランドレース (L)	10.3	10.4	10.1	10.3	10.2	10.3	9.9	10.5
大ヨークシャー (W)	10.3	10.5	10.2	10.3	10.2	10.2	9.7	10.7
中ヨークシャー (Y)	9.5	9.5	10.3	9.5	9.3	10.0	8.0	---
パーカーシャー (B)	8.2	8.3	8.2	8.1	8.3	8.0	8.0	7.9
デュロック (D)	9.0	9.2	9.0	9.1	8.9	8.9	9.6	9.5
ハンプシャー (H)	9.0	8.7	8.8	9.7	---	9.0	---	9.3
LW	10.6	10.4	10.5	10.6	10.6	10.6	10.4	10.4
WL	10.5	10.6	10.4	10.6	10.6	10.5	10.3	10.1
海外ハイブリッド	10.9	10.9	11.1	11.1	11.0	10.9	10.6	10.6
その他	10.2	9.0	10.7	10.6	10.7	10.8	10.1	9.8

子取り用雌豚頭数規模別でみると、規模層別において変動はない。

2) 1腹当たり平均離乳頭数(頭) 平均値

●地域別

(頭)

区分	全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレース(L)	9.1	9.3	9.2	9.4	8.9	8.7	9.2	8.8
大ヨークシャー(W)	9.1	9.5	9.1	9.1	9.0	9.5	8.9	8.9
中ヨークシャー(Y)	8.0	8.0	7.8	--	7.5	10.0	9.0	--
パーカー(B)	7.2	7.3	7.1	7.0	7.0	7.7	7.6	7.2
デュロック(D)	7.9	8.2	7.5	8.6	8.0	8.0	7.8	7.9
ハブシャー(H)	7.7	9.2	--	8.8	--	--	--	7.0
LW	9.3	9.6	9.3	9.5	9.3	9.2	9.4	9.1
WL	9.3	9.7	9.2	9.5	9.3	9.4	9.4	9.2
海外ハイブリッド	9.7	9.8	9.6	10.0	9.2	8.7	9.5	9.7
その他	8.7	9.9	9.0	9.1	9.0	8.9	9.6	7.5

前年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。

「LW、WL、海外ハイブリッド」の1腹当たり平均離乳頭数は9.4頭である。

●子取り用雌豚頭数規模別

(頭)

区分	全体	1-19頭	20-49頭	50-99頭	100-199頭	200-499頭	500-999頭	1000頭以上
ランドレース(L)	9.1	9.2	8.8	9.1	9.1	9.1	9.2	9.7
大ヨークシャー(W)	9.1	9.2	8.9	9.2	9.0	9.1	9.0	10.0
中ヨークシャー(Y)	8.0	6.5	8.7	7.8	8.3	9.0	8.0	--
パーカー(B)	7.2	7.1	7.1	7.2	7.5	7.2	7.3	7.4
デュロック(D)	7.9	8.2	7.7	7.9	7.7	7.7	8.5	8.7
ハブシャー(H)	7.7	7.8	7.3	8.0	--	8.0	--	9.0
LW	9.3	9.1	9.1	9.4	9.4	9.5	9.7	9.7
WL	9.3	9.1	9.1	9.3	9.4	9.4	9.4	9.6
海外ハイブリッド	9.7	9.5	9.5	9.7	9.7	9.7	9.7	9.7
その他	8.7	7.5	8.9	8.9	9.4	9.6	9.3	9.0

子取り用雌豚頭数規模別にみると、小規模層よりも、大規模層の方が、離乳頭数が多くなる傾向にある。

3) 平均育成率(%) 平均値

●地域別

(%)

区分	全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレース(L)	88.4	89.2	88.7	88.3	89.2	87.1	87.6	88.0
大ヨークシャー(W)	88.5	89.5	89.9	87.1	88.2	87.3	86.4	87.7
中ヨークシャー(Y)	84.3	80.0	80.9	--	89.0	100.0	90.0	--
パーカー(B)	87.6	86.8	85.6	87.4	90.8	96.3	88.1	87.8
デュロック(D)	86.7	86.7	85.4	87.4	86.7	87.1	87.4	87.7
ハブシャー(H)	86.9	91.8	--	89.5	--	--	--	84.7
LW	88.5	89.4	88.4	88.9	89.2	87.8	88.6	88.0
WL	88.8	89.5	88.1	88.4	89.5	88.0	89.0	88.8
海外ハイブリッド	89.7	90.1	88.7	90.3	89.3	85.4	88.4	90.6
その他	86.3	88.5	88.7	87.9	87.1	80.3	88.3	82.9

前年との比較ではほぼ横ばいの成績である。

「LW、WL、海外ハイブリッド」の平均育成率は88.7%である。

●子取り用雌豚頭数規模別

(%)

区 分	全 体	1-19頭	20-49頭	50-99頭	100-199頭	200-499頭	500-999頭	1000頭以上
ランドレス (L)	88.4	89.4	87.1	88.4	88.1	88.7	92.7	92.3
大ヨークシャー (W)	88.5	88.6	87.1	88.6	88.1	88.9	91.9	92.5
中ヨークシャー (Y)	84.3	66.7	83.3	81.6	89.8	90.0	100.0	—
パークシャー (B)	87.6	87.0	86.4	86.8	89.9	89.4	92.1	95.1
デュロック (D)	86.7	89.0	85.9	85.9	86.7	85.6	88.4	91.7
ハンプシャー (H)	86.9	89.8	82.4	89.3	—	88.9	—	96.0
LW	88.5	88.1	87.4	88.2	88.8	89.8	92.4	91.1
WL	88.8	87.2	87.6	88.0	88.8	90.0	91.4	94.0
海外ハイブリッド	89.7	88.3	87.4	89.5	88.8	89.7	92.2	91.6
その他	86.4	83.0	84.1	86.7	89.4	89.3	90.6	92.3

子取り用雌豚頭数規模別にみると、小規模層よりも大規模層の方が育成率が高くなる傾向にある。

4) 受胎率 (%) 平均値

●地域別

(%)

区 分	全 体	北海道・東北	関 東	北 陸	東 海	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレス (L)	86.8	89.0	86.1	88.1	84.2	85.5	89.6	86.4
大ヨークシャー (W)	87.8	88.8	88.0	87.5	89.2	88.0	87.2	87.2
中ヨークシャー (Y)	87.0	90.0	83.0	—	95.0	100.0	99.0	—
パークシャー (B)	86.6	88.8	83.8	88.6	95.0	93.0	86.2	86.6
デュロック (D)	84.8	85.1	84.9	86.4	84.5	92.0	79.7	84.4
ハンプシャー (H)	82.1	75.0	50.0	—	—	—	—	87.9
LW	87.6	89.3	87.0	87.8	87.0	87.3	89.1	86.8
WL	87.6	89.0	86.9	88.2	87.6	83.7	89.6	87.1
海外ハイブリッド	88.4	88.9	87.8	80.8	88.6	87.0	89.2	88.2
その他	84.9	90.1	88.5	80.5	81.8	67.8	83.3	81.7

前年と比較して、ほぼ横ばいの成績である。

「LW、WL、海外ハイブリッド」の平均受胎率は87.6%である。

5) 分娩率 (%) 平均値

●地域別

(%)

区 分	全 体	北海道・東北	関 東	北 陸	東 海	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレス (L)	87.6	89.3	88.4	91.0	87.7	88.3	91.1	85.6
大ヨークシャー (W)	87.5	89.0	88.0	85.5	87.6	89.0	89.0	86.6
中ヨークシャー (Y)	89.4	90.0	88.4	—	87.5	100.0	90.0	—
パークシャー (B)	87.7	90.3	85.8	88.9	90.0	92.0	89.0	87.5
デュロック (D)	86.2	88.8	87.2	85.8	86.8	92.0	83.4	83.6
ハンプシャー (H)	90.7	100.0	100.0	—	—	—	—	87.3
LW	87.7	89.8	87.5	88.3	87.9	89.9	88.7	86.0
WL	87.2	88.8	86.2	87.1	87.4	86.3	90.6	85.9
海外ハイブリッド	87.3	88.7	86.0	87.1	85.2	88.0	87.2	86.0
その他	86.0	91.2	88.2	87.1	83.6	81.5	86.8	81.7

地域別の分娩率は、ほぼ横ばいであるが、九州・沖縄が他地域に比較してやや低い傾向にある。

6) 母豚の分娩回転数 (回/年) 平均値

●地域別

(回/年)

区 分	全 体	北海道・東北	関 東	北 陸	東 海	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
ランドレス (L)	2.1	2.1	2.1	2.3	2.1	2.1	2.2	2.1
大子クォーター (W)	2.1	2.2	2.2	2.2	2.1	2.1	2.2	2.1
中子クォーター (Y)	2.1	2.3	2.0	--	2.1	2.0	2.4	--
パークォーター (B)	2.1	2.1	2.0	2.1	2.0	2.1	2.2	2.1
デュック (D)	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1	2.0	2.2	2.0
ハーフクォーター (H)	1.9	2.1	1.0	--	--	--	--	2.0
LW	2.2	2.2	2.2	2.2	2.2	2.1	2.2	2.1
WL	2.2	2.2	2.2	2.3	2.2	2.1	2.2	2.2
海外ハイブリッド	2.3	2.3	2.2	2.3	2.3	2.1	2.3	2.3
その他	2.1	2.2	2.1	2.3	2.2	2.1	2.1	2.0

前年との比較では、ほぼ横ばいの成績である。

「LW、WL、海外ハイブリッド」の分娩回転数は 2.2 回転である。

7. 事故率 (死亡) について

1) 離乳後から出荷時までの事故率

●地域別

区 分	全 体	北海道・東北	関 東	北 陸	東 海	近 畿	中国・四国	九州・沖縄
平均	H18年度	7.5	6.0	7.7	6.5	7.2	6.5	8.9
	H17年度	7.4	5.9	7.4	5.8	6.9	5.8	8.5
	H16年度	5.6	4.9	5.6	4.6	5.5	4.3	6.0

全体では前年に比較して 0.1 ポイント増加した。地域別にみると、九州・沖縄が 8.9% で高く、関東 7.7%、東海 7.2% と続いている。事故率 15% 以上の養豚経営戸数は 550 戸あり、その平均事故率は 20.0% である。

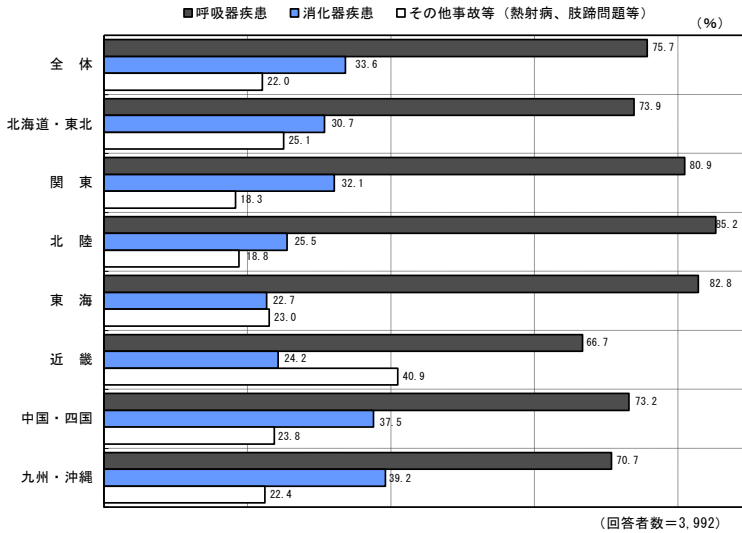
●子取り用雌豚頭数規模別

区 分	全 体	1-19頭	20-49頭	50-99頭	100-199頭	200-499頭	500-999頭	1000頭以上
平均	H18年度	7.7	6.4	7.4	8.2	8.1	7.8	8.8
	H17年度	7.4	6.8	6.8	7.7	8.2	7.6	8.5
	H16年度	5.8	4.8	5.6	5.9	5.9	5.7	7.1

子取り用雌豚頭数規模別にみると、各年度とも 50~99 頭、100~199 頭規模層と 1,000 頭以上規模層の事故率が高くなっている。

2) 事故の主な要因について (○印は2つ以内)

●地域別



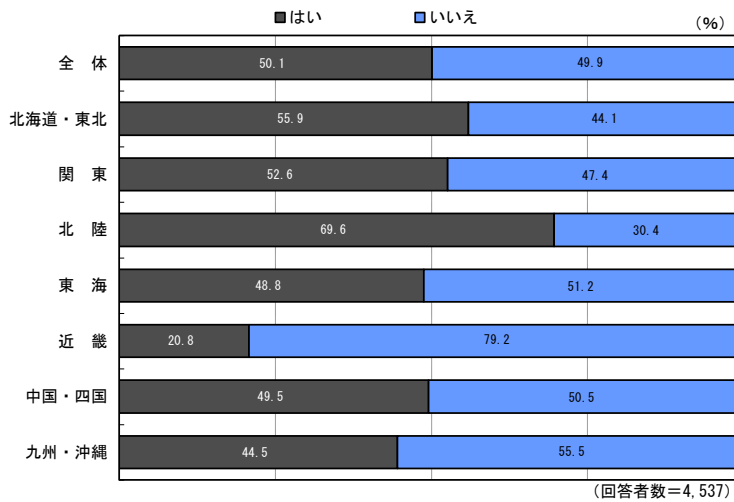
肉豚の主な死亡事故の要因は、呼吸器疾患 75.7%、消化器疾患 33.6%で呼吸器系による事故率が最も高い。
地域別にみても同様の傾向である。

8. 担い手 (認定農業者) について

認定農業者とは、自ら経営改善に取り組むやる気と能力のある農業 (養豚) 経営者が、いわば「農業 (養豚) 経営者のスペシャリスト」をめざす計画である「農業経営改善計画」を作成し、その計画を市町村が認定する「認定農業者制度」によって認定を受けた農業 (養豚) 経営者である。

1) あなたの養豚場は、認定農業者ですか

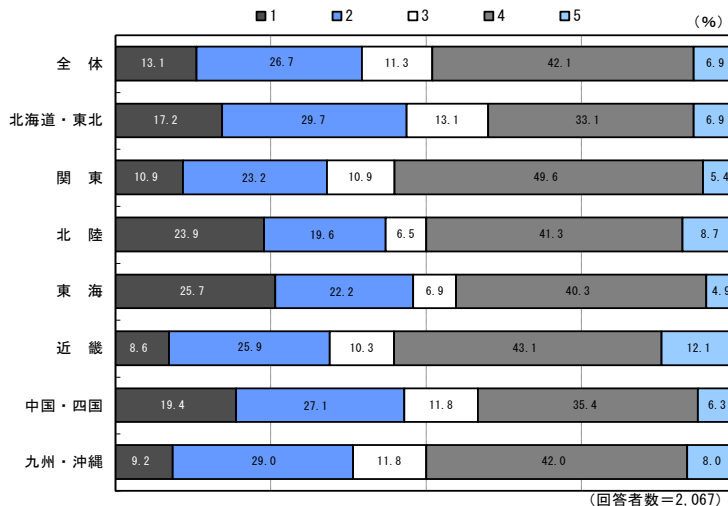
●地域別



平成 19 年度より「農業 (養豚) 経営者の専門家 (担い手)」を目指す計画で認定農業者制度が導入される。
8 月 1 日現在の状況をみると、認定農業者が 50.7%、未認定農業者が 49.3%でほぼ半々の割合である。

2) 1)で「いいえ」とお答えの方の今後について、お伺いします

●地域別



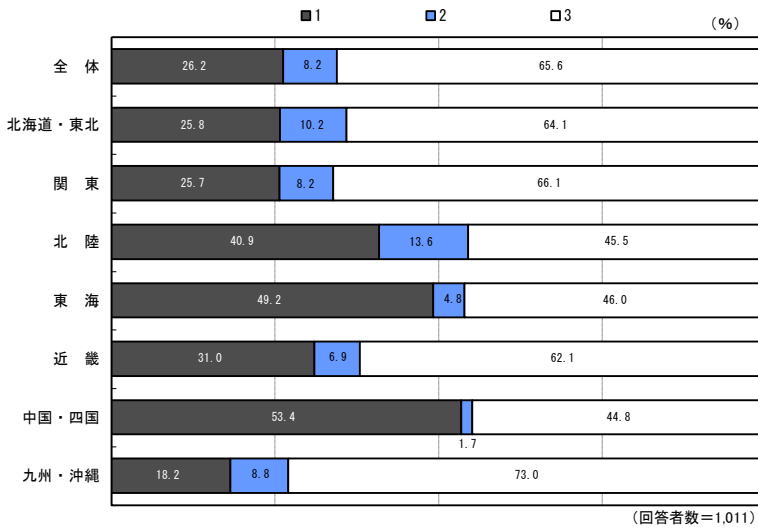
- 1 認定農業者になる予定で、具体的な準備をしている
- 2 認定農業者になる予定で、検討している
- 3 現状では認定農業者になれないのであきらめている
- 4 認定農業者になるつもりはない

8 月 1 日現在で、未認定農業者の中で今後認定農業者を予定している経営者は 51.1% (1~3 の合計)、認定農業者にはなりたくない 42.1%である。
地域別にみても、ほぼ同様の傾向である。

3) 2)で3・4とお答えの方へお伺いました。

地域肉豚生産安定基金等の経営安定対策等について、平成19年度以降対象が「認定農業者」を基本とした「担い手」となることとなっていますが

●地域別



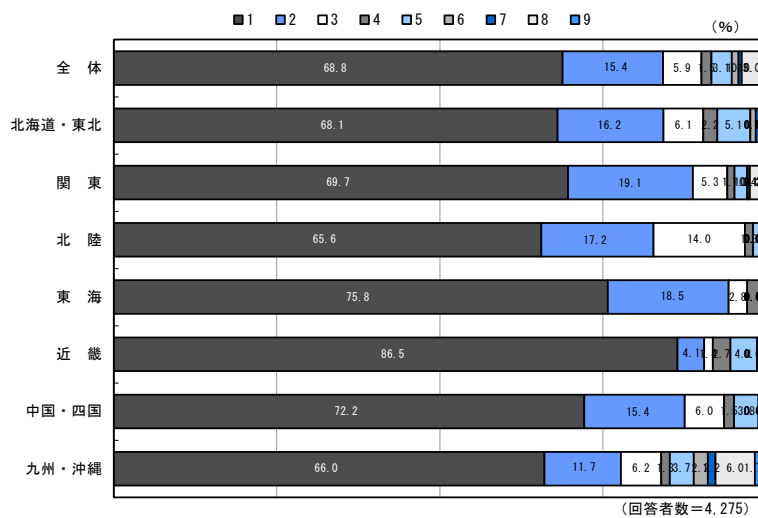
- 1 このことを知っていた
- 2 この調査で初めて知ったので「認定農業者」になる努力をしたい
- 3 この調査で初めて知ったが「認定農業者」になるつもりはない

平成19年度以降対象が「認定農業者」等となっているが、「このことを知っていた」、また、「努力したい」を合わせると33.4%であるが、「この調査で初めて知ったが「認定農業者」になるつもりはない」が65.5%である。この傾向は九州・沖縄で顕著である。

9. 経営形態について

1) あなたの養豚場は、次の分類のどれに属しますか

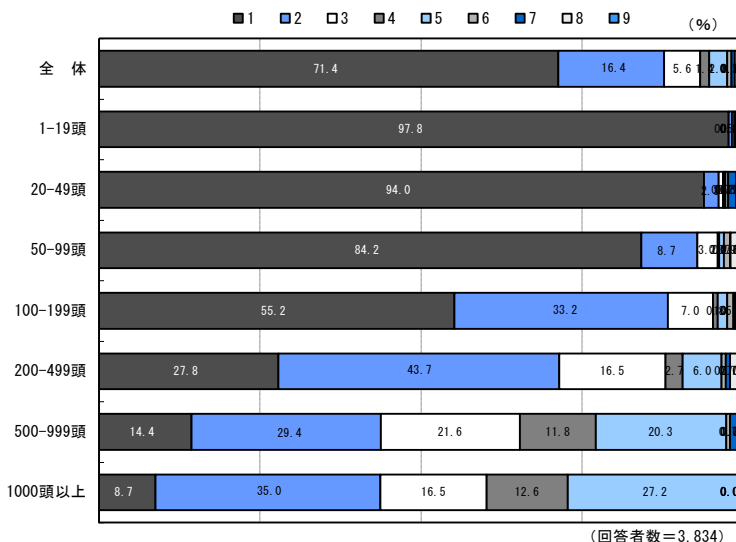
●地域別



- 1 個人経営 (7・1の何れかに○印)
- 2 有限会社〇〇養豚場
- 3 有限会社〇〇養豚場の養豚場である (有〇〇 △△農場)
- 4 株式会社〇〇養豚場
- 5 株式会社〇〇養豚場の養豚場である (株〇〇 □□農場)
- 6 上記1~5の契約農場である
- 7 〇〇農協の契約農場である
- 8 上記1~5の預託農場である
- 9 〇〇農協の預託農場である

経営形態は、個人経営68.8%、有限会社系21.3%、株式会社4.6%である。

●子取り用雌豚頭数規模別

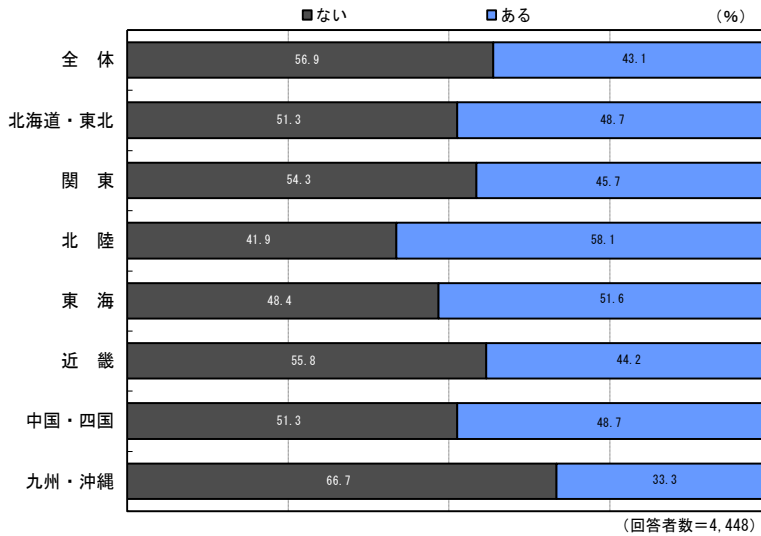


子取り用雌豚頭数規模別にみると、小規模層は個人経営層が高いが、200頭以上層になると有限会社または株式会社の割合が高くなる傾向にある。

10. 環境問題について

1) 環境問題で困っていることがありますか

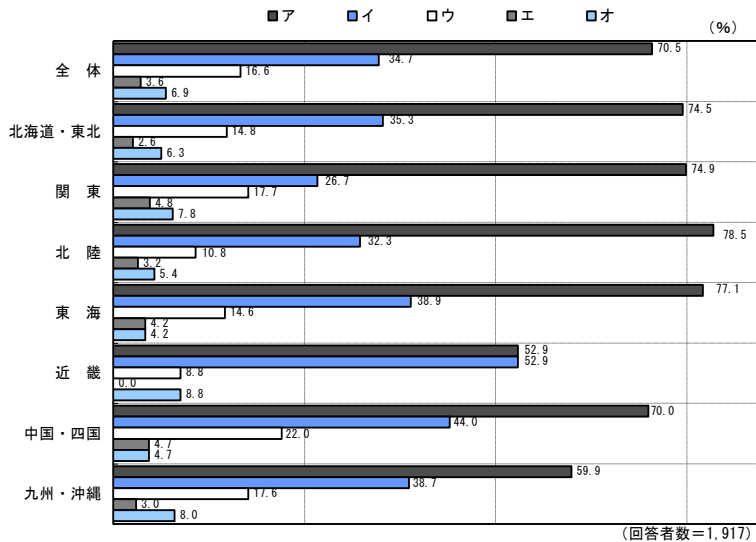
●地域別



畜産環境問題については、困っていることが「ない」56.9%、「ある」43.1%である。

「ある」の内訳 (○印は幾つでも)

●地域別



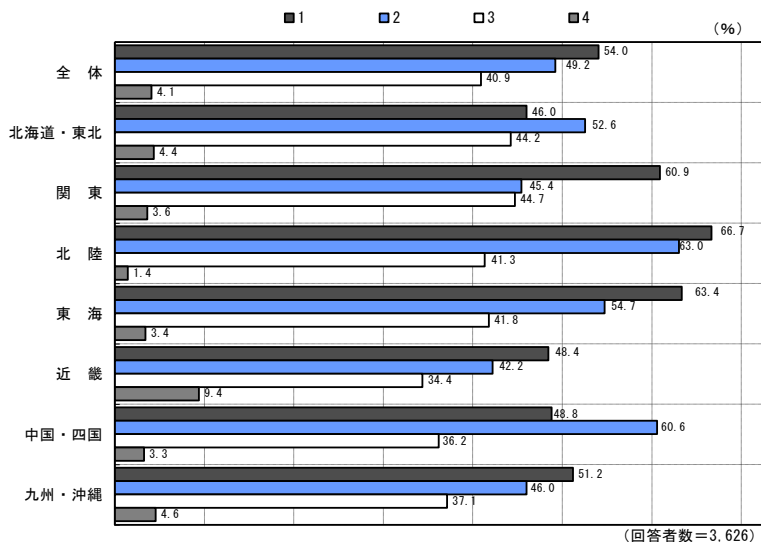
2 ある (7~オに○印を記入 ○印は幾つでも)

7. 悪臭問題
- イ. 水質汚濁問題
- ウ. 害虫問題
- エ. 騒音問題
- オ. その他

畜産環境問題の内容をみると、悪臭問題が70.5%と高く、水質汚濁問題34.7%、害虫問題16.6%と続いている。

2) 周辺対策の実施状況 (○印は幾つでも)

●地域別

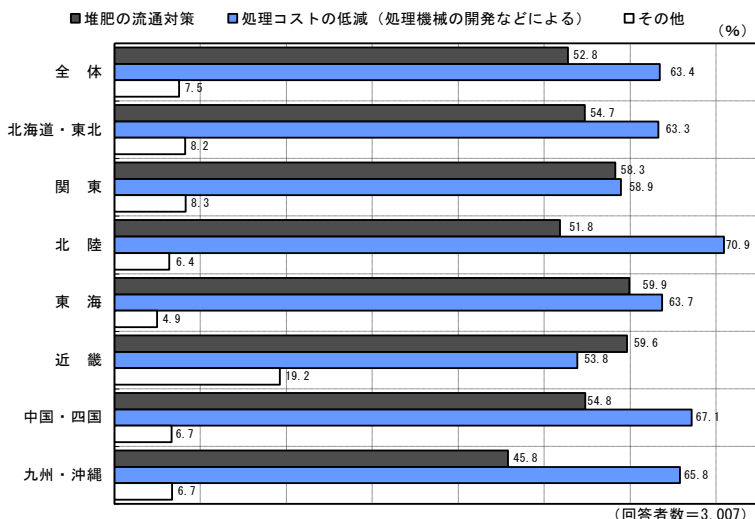


- 1 畜舎周辺への花木の植栽
- 2 地域活動への協賛・協力
- 3 周辺住民への生産物 (豚肉・豚肉加工品、堆肥など) の配付
- 4 その他

農場周辺対策では、畜舎周辺への花木の植栽54.0%、地域活動への協賛・協力49.2%、周辺住民の生産物の配付40.9%となっている。

3) 今後対策して欲しい支援対策 (○印は幾つでも)

●地域別

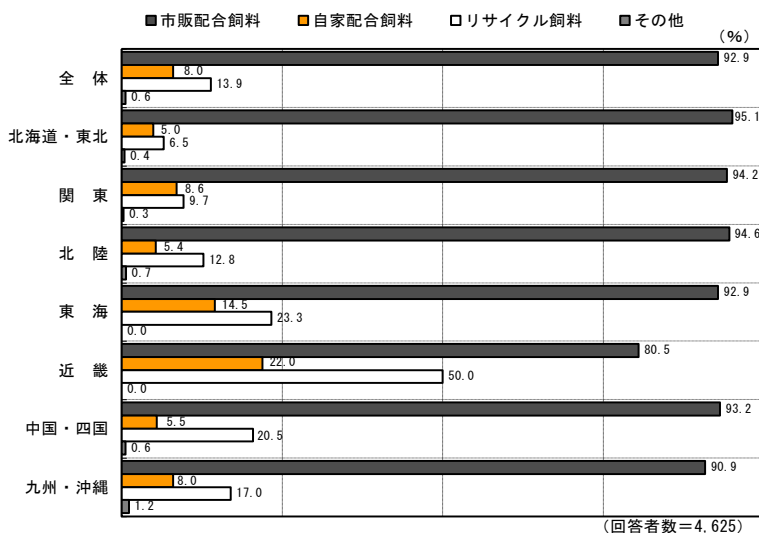


畜産環境対策で、今後実施して欲しい支援対策としては、処理コストの低減63.4%、堆肥の流通対策52.8%となっている。

1.1. リサイクル飼料の利用について

1) 現在使用している飼料 (○印は幾つでも)

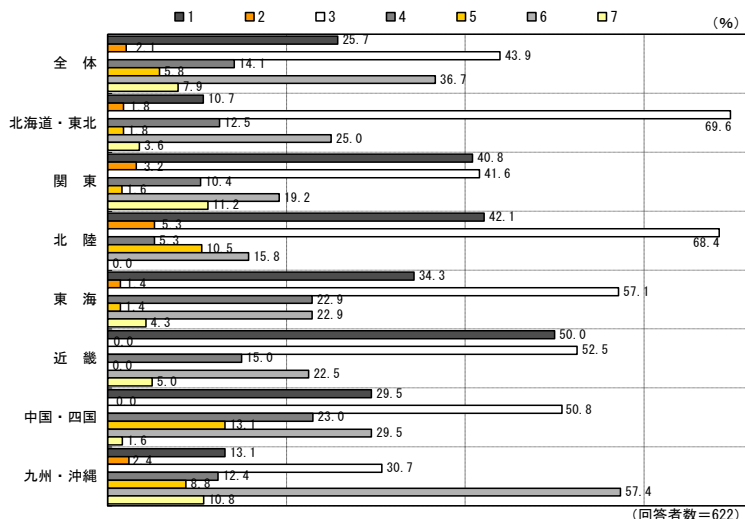
●地域別



現在、養豚経営者が利用している飼料は、市販配合飼料が92.9%、自家配合飼料8.0%、リサイクル飼料13.9%である。リサイクル飼料を地域別にみると、近畿50.0%、東海23.3%で、中国・四国、九州・沖縄と続いている。リサイクル飼料の利用推移をみると平成15年10%、17年17.3%、18年13.9%となっている。

2) リサイクル飼料の種類について (○印は幾つでも)

●地域別



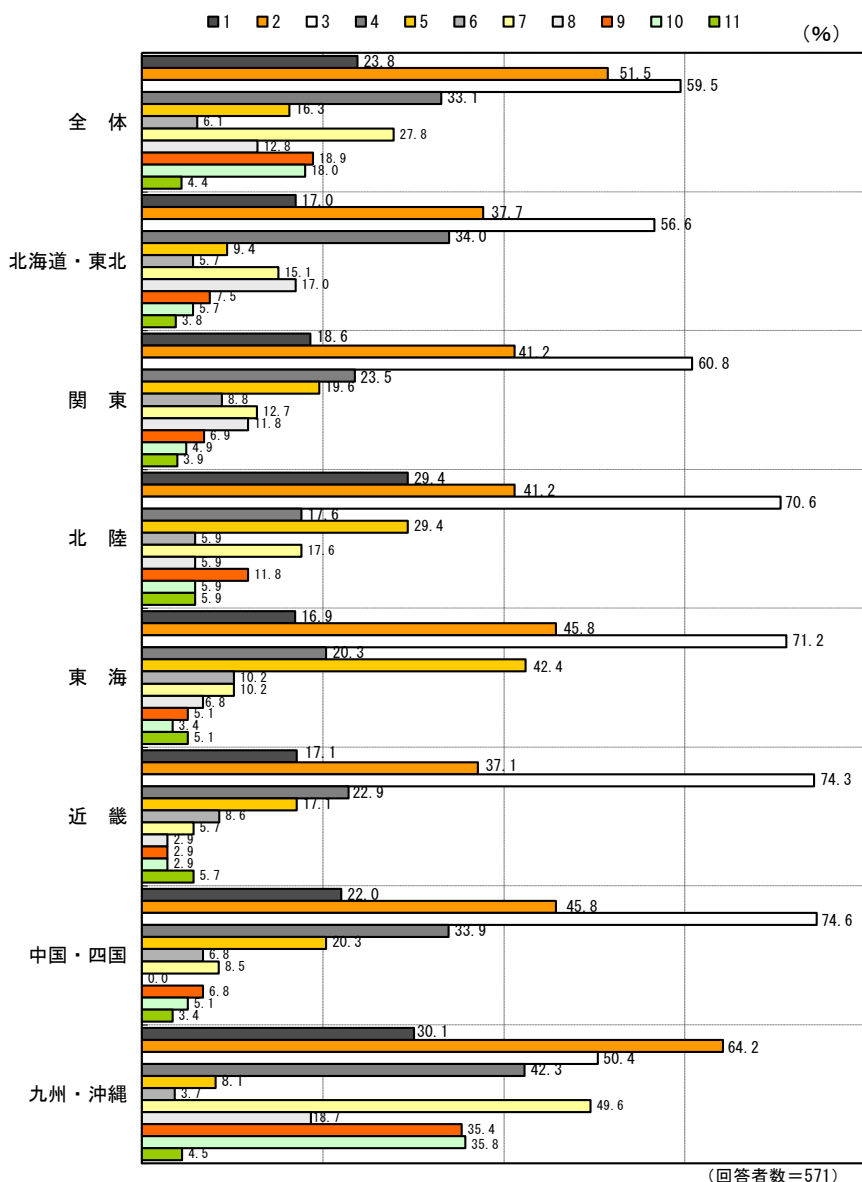
- 1 加工された乾燥飼料 (加熱乾燥、発酵乾燥など) を購入
- 2 加工されたリキッド飼料 (液状発酵飼料など) を購入
- 3 食品製造工場 (事業所) から原材料を入手し利用する
- 4 中食事業所 (弁当や総菜の調理層など) から出る原料を入手し利用する
- 5 食品販売 (スーパー、コンビニなど) から出る原料を入手し利用する
- 6 レストラン、ホテル、給食センターなどから出る原料を入手し利用する
- 7 その他

リサイクル飼料の種類については、「食品製造工場 (事業所) から」が43.9%、「レストラン・ホテル・給食センターから」が36.7%、加工された乾燥飼料25.7%の順となっている。

3) 原材料を入手して、リサイクル飼料を利用されている方に、お伺いします

原材料の種類は何ですか（加工されたものを購入する場合はお答えする必要はございません）

●地域別



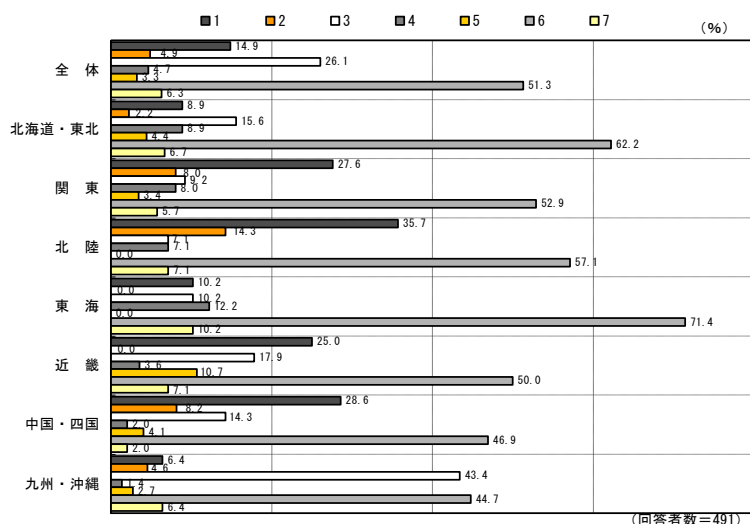
- 1 食品製造粕類（豆腐粕、醤油粕、ビール粕、酒粕、焼酎粕、澱粉粕、茶粕など）
- 2 ご飯、米加工品（残り調理ご飯、残り弁当、米菓など）
- 3 パン類（食パン、パンの耳、菓子パンなど）
- 4 麺類、麦加工品（残り麺、パスタなど）
- 5 和菓子、洋菓子、ケーキ、ビスケット、煎餅など菓子類
- 6 その他の穀類（コーンフレーク、大豆、小豆など）
- 7 野菜、果実、果実ジュース類
- 8 牛乳、乳製品類（ヨーグルト、チーズなど）
- 9 魚、水産加工品（魚あら、練成品）
- 10 肉、食肉加工品
- 11 その他

リサイクル飼料において、原材料の種類は、パン類 59.5%、ご飯、米加工品 51.5%、麺類、麦加工品 23.8% が主なものである。地域別にみると、リサイクル飼料の原材料の種類はパン類が中心であるが、地域により特徴が出ている。

4) あなたは、入手された原材料をどのようにして利用されていますか

（加工されたものを購入する場合はお答えする必要はございません）（○印は幾つでも）

●地域別



- 1 加熱乾燥
- 2 発酵乾燥
- 3 加熱して利用
- 4 酸処理（リキッド）
- 5 冷蔵保管してそのまま利用
- 6 常温保管してそのまま利用
- 7 その他

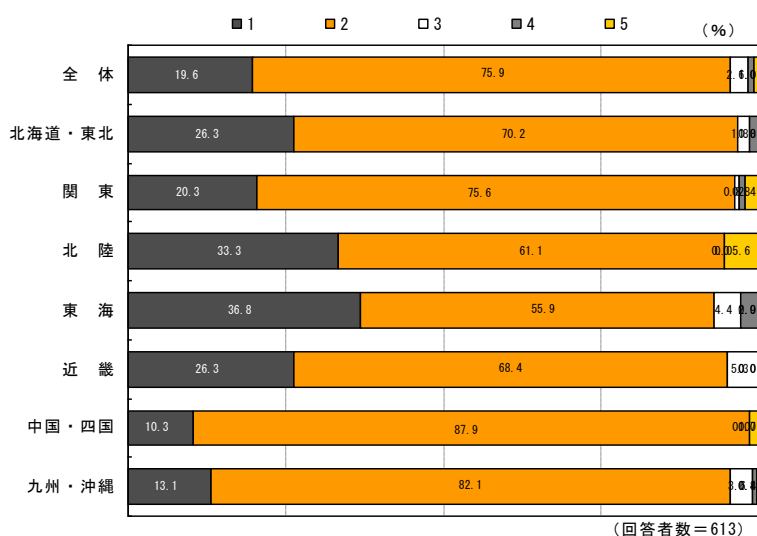
入手された原材料の利用方法は、「常温保管してそのまま利用」が 51.3%、「加熱して利用」が 26.1%、「加熱乾燥」が 14.9% である。地域別にみると、各地域とも常温保管してそのまま利用が、最も多い傾向である。

5) 今後におけるリサイクル飼料利用の意向について、お伺いします。

(1) リサイクル飼料を利用している方に伺います

① リサイクル飼料について、今後の意向についてお伺いします

●地域別



- 1 利用を拡大したい
(量を増やす、種類を増やすなど)
- 2 現状維持を維持したい
- 3 縮小したい
- 4 止めたい
- 5 その他

リサイクル飼料について、今後の意向については、「利用を拡大したい」が19.6%、「現状維持を維持したい」が75.9%である。

② リサイクル飼料又はリサイクル飼料の原材料として入手したいのは、形態としてどのような物ですか (○印は幾つでも)

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 加熱乾燥 (加工) されたリサイクル飼料 | 8 和菓子、洋菓子、ケーキ、ビスケット、煎餅など菓子類 |
| 2 発酵乾燥 (加工) されたリサイクル飼料 | 9 その他の穀類 (トウモロコシ、コーンフレーク、大豆、小豆など) |
| 3 発酵リキッド (加工) されたリサイクル飼料 | 10 野菜、果実、果実ジュース類 |
| 4 食品製造粕類 (豆腐粕、醤油粕、ビール粕、酒粕、焼酎粕、澱粉粕、茶粕など) | 11 牛乳、乳製品類 (ヨーグルト、チーズなど) |
| 5 ご飯、米加工品 (残り調理ご飯、残り弁当、米菓など) | 12 魚、水産加工品 (魚あら、練成品) |
| 6 パン類 (食パン、パンの耳、菓子パンなど) | 13 肉、食肉加工品 |
| 7 麺類、麦加工品 (残り麺、パスタなど) | 14 その他 |

●地域別

	全体	北海道・東北	関東	北陸	東海	近畿	中国・四国	九州・沖縄
1	25.1	22.4	41.2	38.5	37.5	40.5	38.5	9.4
2	9.0	6.1	9.6	38.5	14.3	8.1	9.6	6.5
3	4.1	8.2	3.5	23.1	5.4	2.7	5.8	2.0
4	21.2	18.4	11.4	7.7	14.3	8.1	19.2	31.0
5	41.2	32.7	21.1	46.2	26.8	18.9	38.5	59.2
6	53.5	65.3	48.2	61.5	53.6	56.8	63.5	50.6
7	31.1	36.7	21.9	23.1	25.0	16.2	30.8	38.4
8	14.0	14.3	13.2	38.5	32.1	13.5	21.2	7.3
9	11.0	14.3	9.6	7.7	16.1	16.2	11.5	9.0
10	22.4	10.2	11.4	15.4	5.4	5.4	7.7	40.0
11	14.5	18.4	11.4	7.7	12.5	0.0	5.8	20.0
12	16.8	6.1	7.0	15.4	5.4	2.7	5.8	30.6
13	15.0	2.0	1.8	7.7	1.8	2.7	5.8	31.0
14	2.3	4.1	1.8	0.0	3.6	2.7	3.8	1.6
合計	281.1	259.2	213.2	330.8	253.6	194.6	267.3	336.7
回答者数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

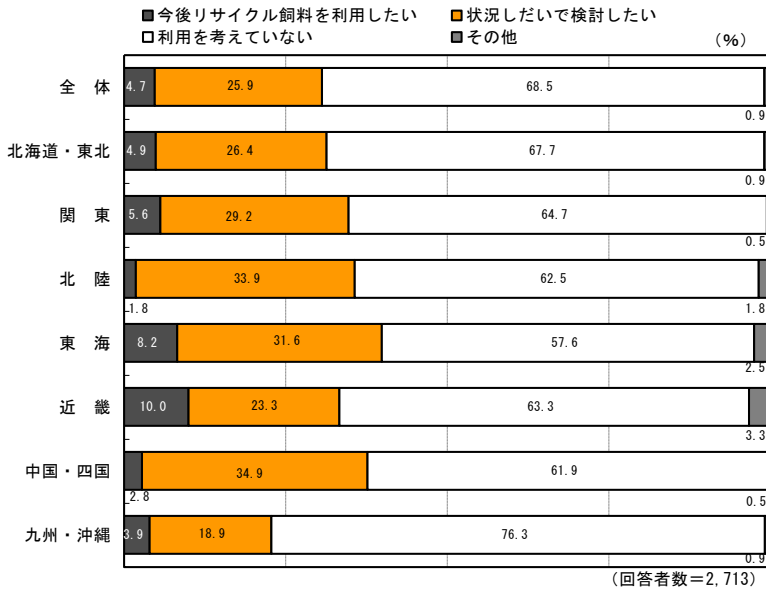
(割合 %)

リサイクル飼料又は原材料としての入手形態は、①パン類、②ご飯・米加工品、③麺類・麦加工品が中心となっているが、地域別では地域の特産品等により異なっていることが分かる。

(2) リサイクル飼料を利用していない方に、お伺いします

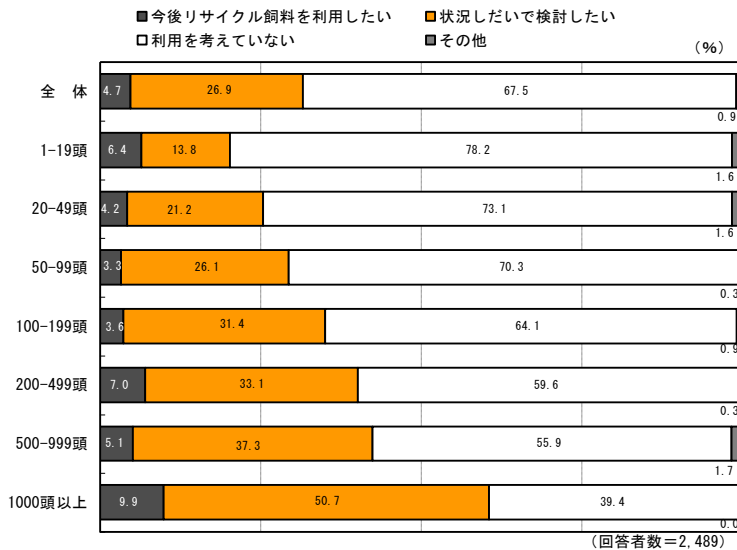
① リサイクル飼料について、今後の意向は何か

●地域別



リサイクル飼料の今後の意向については、「リサイクル飼料を利用する又は利用したい」の割合は30.6%である。地域別ではほぼ同傾向であるが、九州・沖縄は、他地域よりやや低い。

●子取り用雌豚頭数規模別



子取り用雌豚規模別にみると、小規模層より大規模層がリサイクル飼料の利用の意向が高い傾向にある。